

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年4月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673200079
法人名	社会福祉法人 正栄会
事業所名	ふるさとの家郡山
所在地	鹿児島県鹿児島市東俣町3853番地 (電話) 099-298-8118
自己評価作成日	令和3年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○広大な畑を借用し、地域の方のご協力で野菜を育て、無人販売で販売したりして、ご利用者の社会参加や生きがいをづくりをする。また、地域の方へ野菜の販売を通して、地域とのつながりを大切にしている

○入居者主体で敷地内の畑に野菜を育て収穫し、食事に提供するなど生きがいをづくりになっている。

○ご家族とミカン狩りやそうめん流しなどの行事を通して、交流をしていたが、コロナの影響で実現できていない。インスタや広報誌、ZOOM面会を通して状況を発信している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、理念に沿って地域住民の一員として生活できるよう支援する取り組みの一環として、利用者と一緒に畑で栽培した野菜を無人販売等で住民に販売しており、利用者の生きがいにも繋がっている。

・敷地内の庭で桜の花見や芋煮会、サンマ焼き、あくまき作り等のイベントに積極的に取り組み、日々、楽しんでいる。

・家族との面会や外出・外泊がコロナの影響で制限されており、窓越し面会や電話・手紙での交流を支援し、事業所からも広報誌の送付やSNSでの近況報告を行っており、家族と利用者の関係が途切れないように努めている。

・自治会や老人会に加入しているが、コロナの影響で地域行事や老人会のバス旅行等への参加が困難な状況である。しかし、地域住民からのトラクターでの畑仕事のボランティアや野菜の差し入れ等、地域との交流は継続している。

・管理者は、職員の資格取得や研修受講を支援し、職員のレベルアップに取り組んでいる。職員の健康や事情を考慮し継続して働ける就業環境作りに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の中にある「誠の心」について職員で話し合い、職員は理念に基づき実践・行動している。	理念を事業所内に掲示し、重要事項説明書にも記載している。理念を基に、利用者が地域の一人として生活できるよう、散歩等を行い、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響で交流はできないが、畑をトラクターで耕していただいたり、野菜の販売を通して交流できている	自治会や老人会に加入している。コロナの影響でバス旅行や地域行事への参加は自粛しているが、案山子祭りに出品したり、住民からは農作業のボランティアや野菜の差し入れ等があり、コロナ感染防止に配慮し、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	鹿児島市が行っている見守りメイトの受け入れや実務者研修の実習受け入れをして、地域の方々や今から介護職員として働く方々へ認知症の理解を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で郵送のみであるが、老人会や自治会の会長などと会話している	会議は2ヶ月毎に委員へ書類を送付し書面開催としている。個々に意見を聞いたり、老人会長等の来訪が有り、事業所の状況を話し地域行事等の情報を聞き、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター職員と運営推進介護等で情報を交換したり、管理者自ら行政や関係機関の委員を引き受け協力関係を築いている。	市や地域包括支援センター職員とは、電話連絡や入所者の相談などで出向く等、連携を図っている。市の事業及び研修に参加し情報収集に努めている。実習生の受け入れ等を行い、協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行い、身体拘束の弊害等を学び、拘束をしないように意思を統一している。また、委員会等で情報共有している。	指針を基に、委員会を3ヶ月毎に行い、研修会を年1回実施し、事例検討やスピーチロックについて取り上げ、具体例を通して職員の気づきを促している。玄関の施錠はせず、外出希望の入所者は職員間の連携で一緒に散歩したり、気分転換を図る等、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴等を通じて体にあざがないか確認している。また、入所者の表情などから異変を察し、職員に尋ねるなどしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方もいて理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約は管理者・計画作成担当者が十分な説明を行っている。また、入居申し込み時は職員が説明できるようにしており、十分な対応ができるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>電話などで要望や意見をいただくようにしている。</p>	<p>利用者からは、日頃の会話の中から要望等を聞いて対応している。家族には、来訪時や電話で要望等を聞いている。面会や外泊の実施時期については、コロナウイルスの状況により法人で判断することになると伝えて了解してもらっている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ会議を通じて意見がないか確認する機会を作っている。</p>	<p>管理者は、スタッフ会議や個別面談時に職員の提案や要望を聞く機会を設けている。勤務変更の要望も全職員の理解を得て、年齢や健康状態等を考慮して配置転換等を行う等、就業環境の改善に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>キャリアアップなどの研修があり、職場の環境整備、やりがいができるようになっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外の研修に参加する機会があり、職員の能力にあった研修に参加できている		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会の研修に参加し、意見交換を行い、質向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用者の思い（困っていること、不安なこと）に耳を傾け、安心して生活が送れるように心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初回面談時で困りごと等を尋ね、共通理解ができるように努めている。また、不安が軽減できるように支援していくことを伝えている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族等が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>コミュニケーションのとりやすい方、とりにくい方の偏りがないように気を付け、対話を増やすようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者が望んでいることを家族に伝え、面会や外出ができるように働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と関係づくりができるように、職員は手紙を書いたり、いつでも電話ができるようにしている。昔の事やなじみの人などを思い出し、笑っていることが多くなるように支援している。	コロナ感染防止の為、自粛しているが、家族との窓越し面会や電話・手紙での交流を支援したり、事業所から広報誌の送付や毎日更新するSNSで近況報告を行ない、馴染みの人との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが取れるように、スタッフが橋渡しをしたり、場を提供するなど、気配りをしながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談を受けるなど関係が途絶えないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向、希望などをくみ取り、把握できるように努めている。また、困難なことがあれば最良の方法を職員で検討している。	日常の会話の中で、やりたいことや思い等を話してもらえりような雰囲気づくりや声掛けを工夫している。特に入浴や夜勤時に話を聞いている。困難な場合は、これまでの関わりの中や家族・入居前の情報を参考に、職員で話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族から聞き取りをしている。また、サービス機関から家族の同意を得て、可能な限り、情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過などこまめに記入し、また目を通すことにより、心身の状態の変化を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングし、ご利用者の心身の状況をスタッフ間で話し合いができています。話し合った結果を介護計画に反映している。	本人や家族の要望を入れて、担当者会議で検討し介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に、見直しを6ヶ月毎に行い、状況変化に応じて、現状に合った介計画にしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の様子や気になることを支援経過に記録して、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>個別のニーズに対して、関連施設へ訪問し、趣味活動につなげたり、図書館や病院受診など柔軟に対応できるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>老人会の遠足等地域行事に参加したり、図書館や買い物など、ホームにとどまることなく地域で楽しく過ごすことができるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医を主治医にもち、医師や看護師との連携を築きながら適切な医療環境を保っている。</p>	<p>契約時に確認し、かかりつけ医による受診を支援している。緊急時のかかりつけ医の指示を受けて対応し、連携を図って適切な医療が受けられるよう支援している。職員が同行した場合は受診結果を家族へ報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>身体状況を把握し、看護師へ相談できる環境をつくっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時はサマリーを提出または受け取り、GHでの生活がスムーズにできるように情報共有できるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期や重度化した場合はGHで行える支援等を説明し、本人・家族が望む最良の方法を支援する。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について説明している。状況変化に応じて段階的に、特別養護老人ホーム等の選択肢について話し合い、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。訪問診療等の連携・協力を得て、看取り事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急隊の方から心肺蘇生法や骨折時、窒息時の対応を学んでいる。また、外部研修等の研修に参加し知識を得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時の対応法を職員が目につくところへ掲示している。</p>	<p>年2回夜間想定避難訓練を実施し、消防署の指導を1回受けている。地域の協力体制が築かれており、今年度はコロナの感染防止の為住民への声掛けをせず、事業所のみで実施している。地域の緊急連絡網もある。非常用の備蓄は、3日分の水・米・インスタントラーメン・レトルトカレー等を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけを丁寧にし、誇りを傷つけないように声掛け対応をしている。	日常の入浴や排泄介助時には、羞恥心に配慮し、さりげない声掛けや対応をしている。スピーチロックの意識付けもしている。広報誌やSNSの写真使用は同意書をもっており、申し送りは氏名や内容が分からないようにする等、プライバシーの確保をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や表情で察し、適切な声掛け対応を行い、希望に添えるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人になりたいときはどこで過ごしたいかを聞き、自分のペースで過ごすことができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で着替えることができる方は自ら選択できるようにしている。着替えることができない方は、選択できるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を下げたり、食器洗いが一緒にできるようにしている。嗜好を聞き、おいしく食事ができるようにしている。	菜園の野菜を収穫したり、旬の物を使い、食事形態を考慮し利用者も一緒に下ごしらえや下膳・食器洗いをしている。梅干し作りや誕生日の特別メニュー季節の行事食等を取り入れ、食事が楽しめるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りがないように大まかな献立を決め調理している。水分や食事量をチェックしている。嚥下障害がある方とはろみをつけるなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行い、誤嚥がないようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、都度の声掛け、誘導をしている。また、適切な排せつ器具を使い、入居者が快適な生活が送れるようにしている。	日中はトイレでの排泄を支援し、個々の排泄パターンに応じた声掛けや誘導で、トイレに移動しての排泄に努めている。リハビリパンツから布パンツに改善した事例がある。排泄用品は個々に応じた適切な物を検討している。夜間は、パット交換やポータブルトイレを使用し転倒防止を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖を飲み物に入れ、排泄がスムーズにあるようにしている。また、水分を多くとったり、運動をするなどしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決められているが、発汗や失禁時など柔軟に対応できるようにしている。	週2回の入浴を午後に支援し、発汗や失禁等の必要時は柔軟に対応している。清拭や2人介助等で、安全に気持ち良くできている。拒む場合は、家族の協力を得て電話等で声掛けしてもらったり、無理強いせず翌日等に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度に気を付けながら快適に休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬状で用法や容量がわかるようにしている。薬の内容が変わったときは、申し送りノートに記載し、情報共有できるようにしている。また、定期的に薬の研修をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や楽しみにしていることを聞きながら、気分転換できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナで外出する機会が少なくなったが畑仕事やドライブに行くなどしている	気候が良ければ毎日散歩をしたり、畑仕事を楽しんだり、収穫したり、身近なところへドライブに出かけたりしている。広い庭を利用して芋を焼いて楽しんだり、外気浴をしている。ユニット毎の季節の花見・車窓からの見物等のドライブに月1回は出かけている。家族との外出は、受診時に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口の所持金を預かり、希望するものを購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話は都度取り次いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアには皆さんで作った季節に応じた飾り物をしている。また、室内から外が見えるようになっているので季節の移り変わりなどを感じることができる。</p>	<p>日当たりの良いフロアは、ウッドデッキから広い庭に出られる開放的な造りで、換気を十分に行い、温度や湿度の調整に配慮している。思い思いにくつろげるよう、ソファがフロアや廊下に置き、外にもベンチがある。好みの場所で穏やかな時間が過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアや廊下等にソファを設け、一人でゆっくり過ごしたいときはくつろげるようにしている。また、会話ができるように居場所の工夫などしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には昔なじみのものを家族にもってきていただき、心地よく過ごすことができるようにしている。</p>	<p>居室にはベッド・エアコンが設置されている。本人が使い慣れたタンスやテレビ・ラジオ・仏壇・寝具等を持ち込み、家族の写真を飾り、本人が自宅にいる時と同様にくつろいで過ごせるような部屋作りにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりを設けて移動しやすいようにしている。また、車いすで移動しやすいように廊下は広くしている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない